

【明治維新～大日本帝国憲法制定】

1868年：「一つやろうや、五箇条出して明治維新」＝王政復古の号令・五箇条の御誓文
↓旧幕府側の反発＝(1)戦争継続

1869年：(1)戦争終了→版籍奉還実施！

1871年：「言わないで、藩をなくすの嫌だとは…」＝廃藩置県

※廃藩置県に踏み切った理由

江戸時代に締結した不平等条約の改正が明治政府の悲願であったので、諸外国が認めるような近代的中央集権国家を早期に樹立したいと考えたから。

↓急激な改革に対して士族(旧武士)の不満が高まる。

↓政府や民間の一部に、不満のガス抜きとして朝鮮討伐を行おうとする意見が生まれる(＝征韓論)

1873年：「人は涙の徴兵令・地租改正」＋征韓論敗北(西郷隆盛・板垣退助ら政府官職辞任)

※征韓論賛成者の動き

①西郷隆盛：1877年西南戦争を起こす＝武力で政府に対抗する。

②板垣退助：1874年(2)を提出する＝言論で政府に対抗する。

1881年：「一番早い、国会開設の勅諭・自由党発足」←汚職事件発覚がきっかけ

1885年：(3)制度発足＝初代総理大臣(4)

↓この頃、福沢諭吉が「脱亜論(アジアの一員ではなく欧米の一員となるべき)」を唱える。

1889年：「アジアでいち早く成立、大日本帝国憲法」

1890年：第一回帝国議会開催・教育勅語制定

1891年：天津事件→司法の独立を守る→欧米諸国の評価が高まる→治外法権撤廃(1894)

【日清戦争・日露戦争】

1894年：朝鮮で甲午農民戦争(＝東学党の乱)発生→日清両国出兵→「一つ躍進(5)」

→下関条約：①賠償金 2 億両を日本に払う

②(6)と(7)半島を日本に譲渡 注)清は(8)の独立を認める。

→三国干渉：(9)・独・仏による脅迫→(7)半島を清に返還→反口感情(臥薪嘗胆)

→賠償金によって官営の八幡製鉄所を建設し軍備を増強

→中国の弱体化：ドイツは青島、ロシアは大連・旅順、イギリスは威海衛を租借(半植民地化)

1900年：(10)事件：欧米による植民地化に反対する運動→欧米諸国により鎮圧＝北清事変

1902年：「戦争に行くをにらんで(11)同盟」：日英でロシアに対抗するため

1904年：「日暮れしお先真つ暗(12)戦争」

→内村鑑三・与謝野晶子(「きみ死にたまふことなかれ」)他の反戦運動発生

→ロシアでは相次ぐ敗戦により民衆の不満爆発→日露双方が戦争終結を希望する

1905年：ポーツマス条約 in アメリカ(日本全権＝小村寿太郎&ロシア全権＝ウイッテ)

条約内容：(8)における日本の優越権＋樺太の南半分&大連・旅順を日本に割譲

→賠償金を取れないことを知った日本国民の不満が爆発→(13)事件発生